



2022年6月10日

日本鉄道労働組合連合会

## 立憲民主党ワーキングチームに出席

# 持続可能な地域公共交通の実現に向け主張を展開！

6月1日、衆議院第二議員会館において、立憲民主党「地域公共交通課題検討ワーキングチーム」の会合が開催された。同会合には、会場・ウェブを合わせて17名の立憲民主党所属国会議員が出席し、JR産業を代表して、JR連合からは政所大祐事務局長、相良夏樹組織・政治部長、森安祐貴交通政策部長が出席した。冒頭、挨拶に立った江崎孝参議院議員は「ワーキングチームを新たに発足した。人々が生き生きと暮らすことのできる地域をつくるべく、課題の解決に向けて取り組みたい」旨の決意を述べた。

会合は、JR連合へのヒアリングを行う形式で進められた。はじめに政所事務局長から、JR連合のスタンスとして「私たちは、より良い地域公共交通、輸送サービスを創り地域の発展に寄与していくことが重要と考える。そのために『チーム地域共創』という表現を用いて提言してきたし、コロナ禍を踏まえ新たな提言も発出した。是が非でも鉄道を残すということが至上命題なのではない」旨を説明した。



続いて、森安交通政策部長から地域公共交通の現状と課題について説明し、「地方においても公共交通を必要とする人が一定程度存在する」としたうえで、「JR発足時と比べ鉄道のご利用（輸送密度）が10分の1未満に減少する線区もある中、地域の実情に応じた持続可能な公共交通のあり方を議論する必要がある」と主張した。

その後、JRが地域との連携を強化していくことの重要性や、鉄道がわが国の人流（輸送人キロ）の約3割を担う一方で国の鉄道予算（約1,000億円）は道路予算（約1兆6,000億円）に比べ極めて少ない実態、省庁横断的に地域公共交通を支えることの必要性等について意見を交わした。

JR連合は、今後も同ワーキングチームに積極的に参画し、国会論戦等を通じて我々の主張を展開していく。あわせて、あらゆる関係者に我々の考え方をご理解いただく取り組みを通じて、持続可能な地域公共交通の実現に向け取り組んでいく。

### 出席した国会議員

#### 【会場出席】

江崎孝議員（参・比例）、近藤和也議員（衆・比例北陸信越）  
森屋隆議員（参・比例）、渡辺創議員（衆・宮崎1区）  
湯原俊二議員（衆・比例中国）、神谷裕議員（衆・比例北海道）  
福田昭夫議員（衆・栃木2区）、渡辺周議員（衆・比例東海）  
野田国義議員（参・福岡）、森山浩行議員（衆・比例近畿）  
牧山ひろえ議員（参・神奈川）、道下大樹議員（衆・北海道1区）

#### 【ウェブ出席】

緑川貴士議員（衆・秋田2区）、山岡達丸議員（衆・北海道9区）  
佐藤公治議員（衆・広島6区）、小宮山泰子議員（衆・比例北関東）  
逢坂誠二議員（衆・北海道8区）

※下線部は、21世紀の鉄道を考える議員フォーラム加入議員